

ボイラー溶接士実技試験案内

中国四国安全衛生技術センター

実技試験では、溶接作業中に強烈なアークにより、粉じん、有害ガス、紫外線等が発生しますので、受験者の皆さんはこれらに対応する服装・保護具を準備するとともに、安全衛生には特に留意して受験してください。

実技試験を正しく、円滑に受験することができるように次の事項をあらかじめ十分理解しておいてください。

1 受付等

当センター窓口で実技試験受験票を提示し、普通ボイラー溶接士は 18,900 円、特別ボイラー溶接士は 21,800 円の受験手数料を納入してください。なお、納入済の方は必要ありません。

窓口での手続きが終わりましたら試験開始 15 分前までに、受験者控室に集合してください。

2 持参すべきもの（実技試験受験票以外で持参するもの）

服装・・・作業服、安全靴、保護帽（布帽子可）

保護具・・・防護面、保護眼鏡、防じんマスク、溶接用手袋

工具類・・・ハンマ、ワイヤブラシ、電流計

（注 1）使用可能な溶接棒及び当センターが支給する棒は、下記 4 の(5)をご覧ください。

（注 2）携帯用溶接棒乾燥機を持参される場合は、控室の 100V 電源を使用可能です。

（注 3）防じんマスクは、型式検定に合格しているマスクに限る（ただし、DS1、RS1、RL1、DL1 は不可）。

3 一般注意事項

試験員が試験開始前に試験に関する説明及び注意事項を指示しますので、それにしたがって規律ある行動をしてください。

4 試験に関する注意事項

(1) 服装及び保護具の使用

安全な溶接作業ができるような服装で、必ず保護具を使用すること。

(2) 試験板

①試験板（SS400）及び裏当て金は、支給されたものを使用すること。

②試験板の加工等の準備は、試験員の指示に従うこと。

(3) 溶接姿勢

特別ボイラー溶接士は、横向き突合せ溶接を行う。

普通ボイラー溶接士は、下向き突合せ溶接を行った後、立向き突合せ溶接を行う。

(4) 電流の調整

①電流の調整は、備付けの電流調整板（鋼板）を使用することとし、溶接台等で行わないこと。また、電流調整板に連続してアークを発生させないこと。

②電流の調整には、電流計を使用してもよいが、必ず本人が行うこと。

(5) 溶接棒

①JIS Z3211-2008（軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒）の適合品で E4319 又は E4319U（イルミナイト系）又は E4316 又は E4316U（低水素系）の径 3.2mm 以上 6.0mm 以下のものを使用すること。

※注意 上記適合品以外の溶接棒は使用できませんので、適合品かどうか不明な

場合は、必ず当センターにお問い合わせください。

受験者が持参された溶接棒は、試験員が適合品かどうか確認します。

なお、当センターにおいては、神鋼 B-17 の径 3.2mm と 4mm のものを準備しており、希望すれば使用できます。

②試験には、適合品の同一銘柄（注）の溶接棒を使用すること。なお、溶接棒の混用は認められないが、同一銘柄であれば径の混用(3.2～6mm)は差し支えない。

(注)「銘柄」とは、B-17、B-14、LB-26、LB-47、NSSW-16、NSSW G-200、KS-7、KS-8 等と呼ばれるものであり、例えば、下向き突合わせ溶接で B-17 を使用した場合は、立向き突合わせ溶接も B-17 を使用しなければならない。

(6) 溶接方向

一端から他端に、一方向に進む前進法で行うこと。

(7) 溶接施行

①立向き及び横向き突合わせ溶接を開始したのちは、上下又は左右の方向を変えてはならない。ただし、下向き突合わせ溶接の場合は各層ごとに変わってもよい。

②アンダーカットの補修を行わないこと。

③溶接金属をアークでガウジングしないこと。

④溶接金属をタガネやグラインダーなどで、はつりとらないこと。

(8) 溶接後の処理

溶接したままの状態とすること。(ピーニングなどを行わないこと)

(9) 溶接終了後

溶接台付近を清掃し、器具を整理整頓すること。

(10) 刻印

試験板は、スラグ等をきれいに取り除き、外観検査ができるようにして、打刻場へ持参する。刻印番号を確認すること。

(11) 溶接時間

1時間とする。(この時間は、裏当て金の仮付け溶接開始から試験板提出までとする。)

(12) 溶接機

自動電撃防止装置内蔵の交流アーク溶接機(ダイヘン BP-3006)を使用する。

5 試験板の寸法

